

## 西村大臣及び尾身会長記者会見要旨

令和2年10月23日（金）18時00分～18時45分（45分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせをいたしました。本日、分科会を開催いたしましたして、概要につきましては先ほどぶら下がりの会見で申し上げたところですが、2つの提言をいただいております。尾身会長から詳しく御説明いただけたと思いますが、1つは感染リスクが高まる5つの場面と、感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫という提言、それからもう1つが、年末年始に関する提言であります。

1つ目の方の提言につきましては、この後、御説明いただきますが、それを受けて私どもとして、わかりやすく、そして国民の皆さんに届くように、しっかりとそうした広報活動を行うようにということをおっしゃっておりますので、様々なツールを使いながら対応をしていきたいと考えております。

また、年末年始に関する提言につきましては、政府として国家公務員担当部局、地方公務員担当部局にしっかりと伝えて対応したいと思っておりますし、経済団体については、もう既に新経連にはお願いをしているところですが、経済3団体に呼びかけを行っていきたくと考えております。来週以降、日程を調整したいと思っております。また、所管官庁を通じて各種団体にも呼びかけていきます。来週、関係閣僚に私からもお願いしたいと思っております。

小規模分散型旅行については、観光庁において対応策を検討してきておりますし、対応してきておりますが、さらにそれを今後進めるということでもあります。

東京ドームでの実証につきましては御了解をいただきましたので、幾つかの御指摘を経産省、そして事業者がその御指摘に対して対応しながら、技術の実証を行っていくこととなります。

私からは以上であります。尾身会長から提言について御説明いただければと思っております。

（尾身会長）どうも、尾身でございます。よろしく申し上げます。

こういうことでありましたけれども、時間の関係で、今、大臣から御説明があった2つの提言について今日は集中して。

これが分科会から政府への提言ということで、感染のリスクが高まる5つの場面と、感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫という、この2つの内容になっています。

これは大事ですから読みますけれども、これから冬を乗り越えるためには、これまでの対策を評価することが重要だというのが第1パラグラフです。本感染症の電波は、もう皆さん御承知のように、主にクラスターを介して拡大することから、御承知のように冬に備えるためには、しっかりとクラスター連鎖を抑えることが必要、これはよろしいですね。

実は9月25日の分科会で、あの時点でわかった情報を7つの場面ということで示しましたよね。皆さん御記憶だと思いますけれども。今回はその後、各自治体とのヒアリングを通して、かなりの自治体とヒアリングをしましたけれども、そのクラスターの分析とか、あるいは感染研なんかでやった研究とか、そういういろいろなことを総合して、今回は5つの場面というものに整理して提示することにしました。

それからもう一つは、飲酒を伴う会食においてクラスターが多く発生しているのが、皆さん御承知ですけれども、この感染リスクを下げながら会食を楽しむのはどんな工夫をすればいいか、どんな方法があるかということもとりまとめました。

政府においては、今、大臣のほうからも、実はこのことはいろいろなことをメッセージを、国の出すホームページで出ている、内閣府、厚生省、あるいは分科会等々で、必ずしも社会全体に広く伝わらないことがままありますよね。新聞を読まない人も多いし、テレビを見ない人も多いし、そういう意味では、なるべく広範にこうしたメッセージを、これからますます人々の意識というか、この前説明しましたよね。東京大学のワタナベ先生、人々の意識とかいうのも非常に重要だということで、ぜひこのことは国もわかりやすく、多くの人に伝わるようなメッセージの発信をしていただきたいと。

本題に入りましょう。感染リスクが高まる5つの場面ということで、こういう場面が、全ての感染が起きた場所を網羅することはできませんけれども、最近こういうことが非常に重要で多くなってきたということがわかってきたので、まとめてみました。

まずは飲酒を伴う懇親会ということで、飲酒の影響で気分が高揚する、これはありますよね。それから注意力が低下する。

また、聴覚が鈍麻して大きな声になりやすい。仕切りなどで区切られている狭い空間に長時間、大人数が滞在すると感染リスクが高まるということも、だんだんわかってきた。それから、回し飲みや箸などの共有が感染リスクを高めたというような例も報告されている。こういうことで、場面は飲酒を伴う懇親会というのが、感染が高まるリスク。

2番目は大人数や長時間に及ぶ飲食。長時間に及ぶ飲食、接待を伴う飲食、これは前からずっと議論してきた。深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて感染リスクが高まるというような法則が出てきているということ。大人数、例えば5人以上の飲食では大声になり、飛沫が飛びやすくなるため注意が必要、感染リスク。

それから、マスクなしでの会話というのも、最近これが感染リスクを高めるということがだんだんとわかっていて、マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。それから、車やバスでの移動でも、マスクなしでいると、こういうことが起きるといことが場面3です。

それから、狭い空間での共同生活というのが、いろんな所で見られている。これが場面4です。狭い空間での共同生活は、どうしても長時間にわたり閉鎖空間が共有されるために感染リスク。こういうような寮の所ですよ。寮や部屋のトイレなどの共用部分での感染が疑われる例が最近報告されていると。

それから、今まであまりこういう言い方はしませんでしたけれども、今回の地域の方とのヒアリングを通して、いろんな県から言われていることが、人々の行動の居場所が切り替わるといところが、比較的感染のリスクが高くなるんじゃないかというのが、そういう判断があって、例えば、こういう例ですけれども、仕事を普通の事務の所でやっている時はしっかりとスペース、間隔もとられているしマスクもしている。ところが休憩時間に入っちゃうと、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染リスクが高まるといこと、これは今まではあまりこういうことは申し上げなかったと思うんですけども、こういうことも少しずつわかってきた。

その具体的な例としては、休憩室、禁煙所もそうですよね。一生懸命マスクをしながら禁煙できないし、今、喫煙する所は

狭いですよね。そういうところで、ふとりラックスというよう  
なことが多分あるのだと思いますが。

あるいはスポーツクラブというのはあまり報告がなかったと  
いうのは大臣も、再三言われていることですけれども、運動し  
ているスポーツジムなんかでしっかりそれをみんな、マスクを  
したり、しているんだけど、更衣室なんかに行くと、ちょ  
っとこういう居場所の切り替えで感染リスクが……。

こういうことで、これは全ての状況を現しているわけではな  
いですがけれども、感染リスク、クラスターが起きる典型的な場  
面ということ、こういうことを是非一般の人に。全ての事情  
を挙げると、こんなに紙になっちゃいますから、エッセンスを  
切り出したというようなことで、是非このことを多くの人に、  
国はこのスライドなんかも使って、新聞だけじゃなくていろん  
なメディアを使って報告していただければと思います。

では、先ほど申しましたように、感染リスクを下げながら会  
食を楽しむ方法。特にお酒を飲んで感染する場が多いという  
ことは皆さん御承知ですけれども、お酒を含めた会食を楽しむ、  
どんなふうになれば楽しんで、感染リスクがあまり上がらない  
で、そういう工夫ですよ。こういうことを皆さんは参考にし  
たらいいんじゃないかということですが、利用者の人、  
我々の一般ですよ、それからお店に分けて、利用者の人は飲  
酒をするのであれば、なるべく少人数で短時間で、それからな  
るべく普段一緒にいる人と。これも非常に重要ですね。普段一  
緒にいる人は、家族なんかが一番の典型ですよ。お酒の場  
に行っても、他のグループとわざわざ交流なんかをすると、そ  
ういう感染リスクが低いということで、これは非常に大事なこ  
とで、なるべく普段一緒にいて。それから、深酒、はしご酒など  
は控えて、お酒を飲む場合は適度な酒量でということ。これが  
ある。

それから、箸やコップは使い回しをせず、一人一人自分の、  
わざわざ持っていく必要はありませんけれども、お店で当然提  
供されるわけですから、それを使うということ。

それから、3つ目はお互いの座る位置ですよ。これも非常  
に大事で、座の位置は斜め前向かいですよね。これが比較的感  
染リスクを下げるということがだんだんとわかってきていて、  
真正面、あるいは真横というのは、斜め前に比べると感染リス  
クが高い。逆に斜め前の方が真正面とか真横よりも感染リス

が低いということが、だんだん少しずつわかってきている。このことは重要だと思います。

それから、会話をする時はなるべくマスク着用ということで、最近、フェイスシールドとかマウスシールドというのが使われていますけれども、一部もちろん効果はあるとは思いますが、基本的にはまだいろんな研究が進行中で、最終的にサイエンスとして確立したわけではありませんけれども、昨日のアドバイザーボードでも出ましたけれども、今日も出た。あるいは文献なんかで総合しますと、フェイスシールド、マウスシールドというこの2つは、マスクに比べ効果が少ない、弱い。このことは言えるのだろうと。

1番目のここですね。フェイスシールド、フェイスのほうは、元々マスクと併用し、目からの飛沫感染防止のためにやったので、マスクはこれまで一部産業界で使われてきたものである。こういう1つの情報ですよ。それから、このマウスシールドとフェイスについては、感染防止効果率では、今、今日の時点では我々はこういうふうに判断しました。今後、さらなるエビデンスでもう少しさらに明確に言えるようになりたいと思っています。これがマスク、あるいはフェイスシールドというところですね。

それから、換気が適切になされているなどの工夫をしているガイドラインを遵守したお店と。こういうやるべきことをちゃんとやっている、工夫している、しっかりガイドラインを遵守した店ということで、ここに星印がついていますけれども、従業員で感染者が出たある飲食店ではガイドラインを遵守しており、窓を開けるなどの換気もされており、客同士の間隔も一定開けられたということから、感染者が従業員には出たんですけども、100名を超える利用者からの感染者は出なかったという事例もあるということで、これはやっぱりガイドラインを遵守したお店という。

それから、これはもう言わずもがなですけれども、お店に行く時に体調が悪い人は参加しないということ。そういうことが利用者にはこういうことを気をつけていただきたい。

それから、お店というのはガイドラインをもちろん遵守して欲しいということで、例えば従業員の体調管理やマスク着用、これはもう当然ですよ。それから、席ごとのアクリル板の効果的な設置ということも是非。これは国の方では予算の措置が

されているというふうに聞いていますので、やろうと思ったらできる。

あとは、換気と組み合わせ、適切な、扇風機をうまい位置に、変な位置に置くとどんどん感染がいつちやいますけれども、それは判断していただいて、飛沫が仮に飛んだとしたら、それがうまく外に出るようなかたちでの扇風機の利用なども工夫をしていただきたいと。

利用者には、こういう今、上で言ったようなことを留意事項にしてもらおう。後は、接触アプリのダウンロードなどをやっていただきたいと。

それから、ここには、それ以外にも当然、手を洗うとかいうことはずっと言っているわけですから、マスク着用、飲酒の場面以外では、大声を出さない、こういうことはこれからもやってくださいということで、これはもう多くの人がある。今回はこのお酒に関連して、集中的に議論して提案させていただいたということです。

こういうことで、これはクラスターというのがいろんな所で起きていると。だけれども、今言った5つの場面というのが、感染拡大をする主要な場面であったということ。次に行ってください。

さて、もう一つ、今日政府に分科会から提案させていただいたのが、この年末年始に関する分科会から政府への提言ということで、これはもう1ページですから、皆さんの所にいっているとありますが、年末年始に多くの人々が連続した休暇をとることが予想される。年末年始は日本人にとっては大事な行事ですよ。年末年始に感染を拡大させないため、分科会から政府に対して以下のことを提言させていただきたいと。

1から5ですけれども、1番目、政府におかれては、今年の年末年始には、集中しがちな休暇を分散させるために、年末年始の休暇に加えて、当然この休暇がありますよね。1月の元旦、2日、3日とか、この休暇に加えてその前後で、年末のほうにも年始のほうにもありますが、その前後でまとまった休暇を取得することを職員に奨励していただく。模範を示してもらいたい。

もちろんここで、当然だから言いませんでしたけれども、病院だとか高齢施設、患者さんなんかを受け入れている所は、当然エッセンシャルなサービスは全員休むということではなく、それは当然のこと、これは一応、ここには書いてありませんけ

れども、申し上げたいと思います。

それから1で述べた趣旨は、働き方改革に資するものであり、新たな働き方を創造する意味からも、新型コロナウイルス感染症を契機として、今まで以上に強いリーダーシップを発揮して、本提言を実現していただきたいということです。働き方改革、いろいろやられているんですけども、これを契機にもっとスピードを上げていただきたいという趣旨であります。

それから3番目は、政府におかれては経済団体、地方公共団体に対して、政府と同様に分散して休暇を取得するよう呼びかけていただきたい。

それから4番目に、政府においては、民間企業とも連携し、いわゆる分科会がこのところずっと提言をさせていただいている、小規模分散型旅行を推進するなど、G・O・T・キャンペーン、各事業の運用のあり方も含めて、年末年始の人の流れが分散するように努めていただきたい。

さらに、年末年始は飲酒や会食の機会が増えることから、政府においては、本分科会から提言したさっきの5つの場面、それから感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫という、先ほど2つ提案させていただきましたが、こうしたことをあわせて、わかりやすい形で発信をしていただきたいというような趣旨を、ここに書かせていただきました。

以上、簡単ですけども、今日の2つの提言を説明させていただきました。

(大臣) あと、私からハロウィーンのことをちょっと説明します。

ちょっと止まってください。その前のページ、その次のページ。今、クラスターが発生しやすい場面ということが、図が5つの場面がありましたので、よくいわれるのが、飲酒を長時間して大人数で大声で、これが絡み合って、しかも食事の場ですからマスクをせずにという、これがやっぱりマスクというのが一番大きな要因だと思いますけれども、特に大声とか長時間、大人数でリスクが高まると。今、会長からありましたように、共同生活、特に狭い空間での、寮、合宿などの生活、それから居場所の切り替わりということで、最近ではバスの中もよくいわれます。あるいは移動の車中ですね。マスクをせずに、窓も開けずに会話をしたり食事をする。バスの移動はまた長い時間になることもあります。今ありました、休憩室、喫煙室という

ことで、いろいろな形でできる限りわかりやすく、動画なども使  
って説明していきたいと思います。

ハロウィーンですけれども、これは去年の映像なのですが、  
夜中までこういうかたちですごい人が集まるわけでありませんが、  
今年も、もう既に渋谷区長からありまして、自粛を呼びかけが  
なされていると思いますけれども、今日、御相談を申し上げま  
して、こういうことで呼びかけを今後行っていきたいと思いま  
す。

まさに、密が発生しやすい場所、それからきちんと感染防止  
策がとられていない仮装パーティーへの参加など、それから、  
適切な感染防止策、これは距離をとったり、消毒、マスク、大  
声は控える、こういったことですね。ぜひお願いしたいと思  
います。そして、街頭での飲食、飲酒をしての仮装パーティー、  
こういったこと。どうしても気持ちが大きくなってしまふとこ  
ろがありますので、自粛をお願いしたいと思っています。

他方、家族で、自宅で過ごすオンラインイベントも含めて、  
地方できちんと距離をとって、今日、平井知事からもあつたん  
ですけれども、境港でも妖怪の町ということで、みんな妖怪の  
姿をしてハロウィーンも計画しているのがあるというお話でし  
たけれども、きちんと感染防止策、距離をとって、マスクをし  
たり大声は慎んだりしながらやること。これも地方の楽しみの  
一つでもあると。みんなの手作りで、そうした活性化にも繋げ  
ていくということで、こういったことを徹底していただくとい  
うことが大事だと思いますので、先ほどのとおりでありまして、  
特に飲酒で大声で長時間マスクなしでやるということは、屋外  
は確かにリスクは低くなるんですけれども、それでも近い距離  
で会話がなされますと、ホワイトハウスのあの中庭での例もあ  
りますので、ハグをしたり近い距離で会話が交わされると感染  
があるという恐れがありますので、ぜひ注意をしていただきた  
いなというふうに思います。いろいろな形で呼びかけを行って  
いきたいと思います。

それからあわせて次の技術実証につきましては、先ほど申し  
上げたとおりですが、11月の7日・8日、東京ドームでBe  
acon（ビーコン）や高精細カメラを使って対応します。そ  
れからこれはぜひデータをまた取って欲しいということで、C  
O<sub>2</sub>濃度、この計測・比較、これも行う予定にしていますけれ  
ども、換気を見るのにこの空間でも例えばCO<sub>2</sub>測定器を置い



ておくと、CO2がどんどん上がってくれば、要は換気が悪いということでもわかりますので、こういったデータも使えないかということで、ぜひ実証をやって欲しいという御意見もいただきました。

それから尾身会長からもあったのですが、終わった後の会場外での動態データも、勝った負けたで、また食べに行ったり飲みに行ったりがありますので、このあたりはしっかり呼びかけを行ったり、それから地下鉄の入り口、出口、ここが混み合うということで、最寄りの駅、1つ先の駅、飯田橋の駅を呼びかけるとか、そういったことも行いつつ、その後も密にならないような呼びかけを行っていくということではありますが、こういった技術を使ってどれだけリスクを下げられるかということをし、しっかり実証していければと思います。

それから今日の感染の中で、北海道がそこにありますとおり、昨日は40名、その前は22名、31名ということで、先日も申し上げたように、このところ30名前後がずっと続いておりました、今日は51名ということで、過去最高の感染となっております。うち札幌が38名、士幌13名ということで、先ほど鈴木知事と電話で会談をいたしました。

釧路でもクラスターが発生しております、対応をしっかりとしていくということなんですが、特に一つにはススキノ、札幌の繁華街から道内の各地域に伝播していくことは、これまでもあるということでありまして、札幌に2カ所目の臨時のPCR検査センターをつくるということで、札幌市と調整をしているということでお伺いしました。

これまでも呼びかけて、勧奨してPCR検査を行ってもらっていますが、以前にお示ししました、5つの繁華街のワーキンググループでも指摘をされているんですが、ススキノのこれまでの検査件数は、店舗の数からいってちょっと少な目でありますので、集中的にぜひ検査を行って欲しいということ、私から申し上げました。知事からは夏はかなりどぶ板的に呼びかけて、ずっと店舗を回って勧奨したということでありまして、改めて呼びかけ、勧奨を徹底したいということでありました。

それから病床については重症者は2名ということで、現時点で病床はしっかり確保しているということでありました。いずれにしましても、やはり全体として若い人が多いということが

特徴的でありますけれども、しかしやがては家族あるいは職場などから伝播していきますので、高齢者、リスクのある方々をしっかりとお守りするという事で、引き続き連携をして対応していきたいというふうに考えております。私からの補足の説明は以上です。

（問）西村大臣にお伺いします。年末年始の提言を受けて、今後、官民に呼びかけていかれるということですが、大臣はこの間、新経連に11日という来年の日にちも示しながら、その期間でというお考えを示されました。今回も同様の考えで11日ということ念頭に入れながら、呼びかけを行われるお考えなのでしょうか。お願いします。

（大臣）御案内のとおり1月3日が日曜日ですので、通常の年であれば4日の月曜日から様々な活動が始まることになると思っています。そうしますと3日間に初詣など集中することになります。また、休みも年末から3日までにとなりますので、かなり密な状態も考えられますし、分科会から提言をいただいています、まさに小規模で分散ということが、なかなか実行できないことになりかねませんので、分科会の中では例示として、例えば12月25日ぐらいから11日まで休みを取るのも一案だというお話もありました。休みを分散していくということ。それから三が日の初詣なども集中を避けるという意味もあります。

初詣など年末年始の行事につきましては今シミュレーションもやっておりますし、ある意味、食べながら歩いた場合、食べた場合どのくらい飛沫が出るかということの実測もしておりますので、これを踏まえて初詣にどういう注意すべき点があるのか、あるいは映画館の食事を出す場合、どういうふうに緩和できるかということとは、改めてそうしたデータがそろえば11月上旬にでも、分科会に改めてお諮りしたいというふうに考えておりますが、それは別としても、三が日の3日間に初詣が集中することによって、密になるリスク、感染リスクが高まりますので、それも踏まえれば1つの考えとしては、11日まで休むということもあり得るというふうに思います。

ただ、全ての業種でそれができるわけではありませんので、休みを分散して取るというのは何より基本だと思っておりますので、お正月は皆さん休みたいし、休まれるのがやはり基本だと思っておりますが、その後、年末と年始とうまく組み合わせながら、長い

人はかなりの休みになりますし、そうでなくても分散して休みを取るといことが大事だと思いますので、分科会の提言にあります、小規模分散型の旅行を実現していく一つのモデルケースにもなると思いますし、また、三が日の密を避け感染リスクを下げるという意味でも、経済界に様々な対応を呼びかけたいというふうに考えています。

（問）今日はありがとうございます。尾身先生に感染状況について伺いたしたいと思います。

アドバイザリーボードと同じ資料が出ているんですけども、ほかの先生方に伺うと微増、要は強くなったんじゃないかという意見があった、というふうに聞いたんですけども、今日の評価はどういった評価で、あと要因をどのように評価されたか。あとそれを踏まえて、増加要因を減らして減少要因を増やすために、国民への改めての呼びかけをお願いします。

（尾身会長）微増という昨日のアドバイザリーボードの評価は、これは我々もそう思います。多くのメンバーがアドバイザリーボードのメンバーでもありますし。少なくとも減っているという感覚は。もちろん県によってあれですけども、特に都心部は下降状況ということではなくて。あとは実行再生産数というのはなかなか専門的な領域で、評価が難しいですけども、実行再生産数が大体1の前後で推移していて、上がったたり。

これはもう少し本当は1を下げるということが持続的になることあれば、今の状況はそんなに爆発的なあれでもないし、大臣がおっしゃったように医療が逼迫しているわけでもないし、例のステージでいえば一部、ステージⅢのところもあるけれども、そういうところで、今すぐにステージⅢから上のという段階ではないと思いますけれども、今日のコンセンサスはやっぱり、この前の我々のところで、バランスが上のほうにずれて行く。バランスが崩れていく。下に崩れてくれればいいですけども、バランスが崩れていたりする上に行くという可能性があるので、注意しましょうということがコンセンサス。

今、下げる要因、上げる要因をどうする。下げる要因を強くするということが大事ですよ。上げる要因というのはこの前から申し上げるように、これは人々が経済を少し戻したいという、社会的なそういうコンセンサスがあるから、これは間違いなく社会が受け入れて、何とか両立させたいということで、今

回、我々は年末年始をやめろなんて一言も言ってない。むしろよりうまくやっていたきたいということですよ。

そういう中でどうしても上に行く、感染を上昇させる要素というのが常にあるんです。そういう中でどうしたらいいかというのは、昨日アドバイザーでも、やっぱり都心部が感染のボリュームが強いんです。都市部の感染ボリュームを何とか少しでも、というのが必要だと思います。

じゃあ方法論は何かということですがけれども、実は今日クラスターの場面ということと、お酒ということがありましたけれども、やっぱり感染のリスクが最も高いところは、こういうところで起きるということが、この数カ月の評価でわかってきたわけです。これが最初のころと全然。

4月3月の緊急事態宣言を出すときは、そういうこともはっきりしていない中で、ああいう極力、最低8割ということをやって、今は随分いろんなことがわかってきて、さっき言ったようなこと。お酒を飲んだら駄目なんて言っているんじゃないで、さっき言ったような5つの場面というのを十分みんなが理解してやるのが、実は社会経済をもっと活発化させるための条件となります。

もう一つは、先ほどの文章にもちょっと書きましたけれども、我々は当初のころから申し上げていますが、この病気はクラスターを介して感染する。たまたま1人どこかで感染しても、その人が1人でいたら、これは自然に消滅してしまう病気です。何回も言っているように5人感染しても、ほかの人に感染させるのは1人だけです。こういうことがあるので、わかっている。

最初に申し上げた7つの場面というのは、我々一般市民にはこういうことに注意しながら行動して欲しいという、どちらかというと市民に向けてのメッセージですよ。ところがもう一つ重要なことは行政機関、保健所、そうした医療機関へのメッセージであって、クラスターをどう早く見つけて、どう介入するかというのが極めて重要で。実は今回のヒアリング、この場面をまとめるのに大臣も参加したりして、私も一部参加しましたがけれども、ここでやっぱり地域の人たちがクラスターをどう早く見つけて、どう対応するかというのが、実はこれからの肝だというのが、ほとんど共通の認識です。

それはなぜかということ、これはクラスターを介してうつると

ということですから、そのためには実はいろいろな要素があって、今は検査の話もいろいろ出ていますけれども、実は検査で初発の人を早く見つける。そして濃厚接触者を早く見つけて、濃厚接触のある人は検査もするし、なるべくほかの人にうつさないような行動を取ってもらう。この辺が実は肝なんですよね。これを徹底してやるということが非常に重要。

そういうことをもう一歩、これは緊急事態宣言を出すとか、またステイホームしてもらいたいという話じゃなくて、今の活動をしながらでも、実はそういう前から言っているメリ張りみたいな。今回の5つというのは、まさにメリハリですよ。 「普通に歩いていて感染するものじゃないですよ」とはっきり言っているわけで、こういうことを実は一般の人も高齢者も、中年も若い人もみんなに理解してもらおうと、これが新しい。そしてこういうことが非常に重要です。ただ、それでも感染が下火にならないということはありません。

今日も出ましたけれども、感染が拡大するときはスピードが出ますから。じわじわじゃなくて、行きだすと速いですから。これがこの感染症の特徴なんです。カットオフといいますか、ある閾値を超えるとかなり激しく行きますから。それは早く察知して、早く。そうすると強い対応をする必要になってくる。いわゆる人の流れ、ステイホームとか休業要請とか、あの手のことになる。そうすると経済に打撃が来ますよね。

だからそういうことをしないためにも、やっぱり今申し上げたように、一般の人はこの5つの場面、それから工夫。楽しみながらやる工夫。それから行政機関なんかには、都道府県も今、検査体制をしっかりとやるという方向になって、検査も十分キャパシティー。そこをメリ張りをつけてやるという、この2本立てが必要で。万が一、感染がさらに広がった場合には、早くこの前のステージの段階。だけど我々はなるべくやりたくないから、そういう意味では、今言ったような2つのルールですよ。これが下げる要因ですから。ぜひそれを。ということによろしいですかね。

(大臣) 関連で申し上げますと、今、専門家のお立場から御説明されたことを、私の行政の立場からいいますと、まさに早期検知。早く陽性者をつかまえることが大事ですので、その人を特定する早期検知が大事だと。そのためにはちょっとでも違和感があったりすると、休んで検査を受けるということが大事だ

と思います。これは皆さんにお願いしたいと思います。

そしてこの次が濃厚接触者を特定していく。これは保健所が中心に大変な中でやっていただく話でありますけれども、保健所の負担が重くならないように支援をしながら、保健所の皆さんに頑張ってもらっていて、濃厚接触者を特定していく。これが二つ目です。そのときに少しでも負担を軽減するのは「COCO OA」でありますので、接触確認アプリ「COCO OA」をできるだけ多くの人に入れてもらって、濃厚接触の可能性のある人には通知が行きますので、検査を受けてもらうということに二つ目。

三つ目が、まさにわかってきたときに、集中的に検査をする。今、尾身会長が言われたように、メリハリをつけて検査をするという、まさにリスクがあるという関係の方々。無症状であっても関係の方々。あるいはそのエリアで院内感染を防ぐために、施設であったり病院であったり、そういったところを集中的に幅広くやるということが大事だと思います。これによってクラスターが発生したとしても、次のクラスターに連鎖させないということが大事ですので、徹底的に検査をやっていくということだと思います。

今日鈴木知事は、釧路の状況をさらに分析されるとおっしゃっていましたがけれども、ある程度追えていっている。かなりの部分を追えていっている。クラスタ対策がやれているというふうに報告を受けましたけれども、それから院内感染、施設内感染を防ぐためにかなり広くPCRもやっている、というふうに報告をいただきましたけれども、さらに繁華街などを含めて、必要に応じて何かリスクがあると思えば、早く繁華街も含めて集中的にPCR検査をやることが大事だと思いますので、発生した場合にそうした取り組みを各地で重ねていくことによって、クラスターからクラスターに行かないように。

クラスター対策が不十分だと二次感染、三次感染で次のクラスターにつながっていきますので、そうなるとまさに陽性者が急増していきますから、小さな波を見つけたときにクラスター対策、集中検査、これでその範囲で封じ込めていくということを重ねていきたいというふうに思っています。

(問) よろしく申し上げます。西村大臣に。

分科会からの政府への提言の1番目なんですけれども、まと

まった休暇を取得することを職員に奨励していただくことから示していただきたいと。この実現可能性については大臣はどうお考えなんでしょうか。

(大臣) もともと働き方改革を含めて、休みを分散して取ろうとか、そうしたことも進めてきておりますので、この一環でさらにそれを進めるという意味で年末年始、ある意味モデルケースとなるとも思いますので、これは担当部局、国家公務員を担当する部局、内閣人事局を中心に、しっかりと働きかけ、呼びかけを行いたいというふうに思っています。関係閣僚それぞれの省でも進めていただくということで、私からそれぞれの大臣にもお願いしようと思っております。

(問) 尾身先生にお尋ねします。

先ほど西村大臣からも北海道の感染状況について言及がありましたが、先ほど尾身先生は「ある程度感染が広がると強い対応が必要だ」ということをおっしゃっていたと思うんですけども、改めて今の北海道の感染状況と、必要な対策をどのように考えていらっしゃるかお聞かせください。

(尾身会長) 北海道は若い人が多いし、それから北海道の方と議論したんですが、いろんな可能性があって、100%まだ証明されているわけではありませんけれども、今ほかの地域は下がっているけれども、北海道は感染がちょっと上がっている感じがありますよね。これは何かというと、一つは若い人の関係が多いというのがありますよね。

それともう一つは、やっぱりこれは本州というか、関東地方とか都心部のほうから人が行っている感染。むしろ一番私たちが懸念していたのは、実はクラスターが、これがちょうど3月のころです。確か3月の19日でしたか。北海道知事が緊急事態宣言を独自の判断で出したのが19日ですよ。あのころは実は感染が若い人を中心に、北海道の都心部でクラスターが始まっていた。ところがそれが症状が軽い、あるいはないということで、わからなかった。そして気がついたときにはダッと来たというのは、何度も申し上げました。そういう隠れたクラスターが連鎖、続いているのが一番嫌なわけです。

どうも今のところはそういうことではなくて、はっきりわかっているということで、もちろん注視して、今はまだ検査をもっとやっていただくとか、知事もしっかりとこれについては十

分真剣に取り組んでいただいているので、ある程度これで抑えられるということを私は期待しています。

いざというのを私が言ったのは、危機管理ですから、最悪のことは用意して。ステージ分類ということはそういう考えですから、そういうときには行く必要があるけれども、今のところ北海道はベッドがパンパンでという状況ではないですよ。だからそういうことで、今は知事をはじめ皆さんがやっていることが功を奏して、少しずつ下に行くことを期待しています。

（問）西村大臣に確認なんですが。

年末年始の休暇の拡大について、経済団体に呼びかけをするときには、11日という日付を示すんでしょうか。示すとすれば、考え方なのか目安なのか、どういう形で示すのか、そのお考えをお願いします。

（大臣）きちんと整理をしようと思っておりますが、イメージとしては、例えば11日まで休みとすることも含めて、特に分散。3日が日曜日ですから、そこまでで4日からみんなが通常の年と同じように働き始めるということではなくて、分散して休暇を取得するように配慮をいただきたいと。ざっくり言うと、今私の持っているイメージはそういうイメージであります。